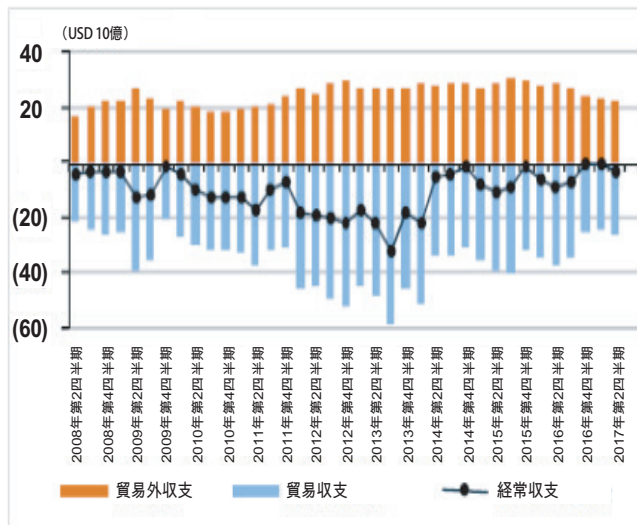


インドの経常収支



出典:CSO, UTI MF Research

インド商業貸出の増加(対前年比%)



出典:Bloomberg

1. Fitch Ratings は、インドの予想成長率を引き下げたが、依然、新興市場のカウンターパートよりも高い数字を維持

Fitch は紙幣廃止の動きの後に、会計年度 2017 年(3 月で終了する現行の会計年度)のインドの GDP 成長率予測を 7.4% から 6.9% へと引き下げた。会計年度 2018 年の予測も 8.0% から 7.7% へと引き下げた。それでも依然、インドの予想成長率は、新興市場とアジアの中では最も高い部類に入る。紙幣廃止による特定の業界が直面した活動上の財政危機や停滞は、一時的であるように思われ、長期的な汚職撲滅に向けた良い動きであり、より質の高い成長を促進している。

2. CBDT は所得税規定を修正 - 説明責任を推進

紙幣廃止の後に、インドの CBDT(Central Board of Direct Taxes) は現金の説明責任を確保するため、特定の所得税の規定を修正した。銀行と郵便局は高額の預金に関して、2017 年 1 月末までに報告書を提出しなくなることになった。資産売却により発生した収入は、売却年度に課税される予定だ。

3. 政府は 2016 年主要港湾委員会法案を承認

この法案は、1963 年主要港湾法に置き換わり、港湾モデルを政府ベースのものから地主ベースのものへ効果的にシフトさせ、これによって、規制上の責任は地主(港湾委員会)が負うこととなり、その一方で、インフラストラクチャは港湾運営を実施する民間企業へ貸し出される。これにより、より円滑な意思決定、執行、透明性の確保が可能となり、世界的な慣行と整合したモデルを配置することができる。

4. インドの会計年度 2017 年、第2四半期の経常収支の赤字(CAD)幅は縮小し、外貨準備高は増加

CAD は貿易赤字の減少(図 1)により、会計年度 2016 年、第2四半期の 85 億米ドル(GDP の 1.7%)に比べて、会計年度 2017 年、第2四半期は、34 億米ドル(GDP の 0.6%)の赤字を計上した。CAD の減少と比較的健康な FDI と FPI の流入もまた、外貨準備高の増加をもたらし、更に 85 億米ドル増加した。

5. 市場のボラティリティにも関わらず、インドルピーは 12 月度に力強さを示す

インド経済監視センター (CMIE) によると、インドの通貨は NEER と REER (名目実効為替レート / 実質有効為替レート)双方の観点で 12 月度に価値が上昇した。貿易ベースの NEER と REER 双方は、それぞれ対前月比で 0.7% 増加した。対前年同期比での輸出ベースの REER(36 通貨バスケットに対して)は 2.9% 増加した。

6. RBI は公定歩合を維持し、成長予想を微調整

12 月の政策レビューにおいて、インド中央銀行 (RBI) は、公定歩合を維持したが、依然景気刺激型の立場を採用している。RBI はまた、マクロ経済変数が好調である限り、今後徐々に(積極的にではなく)軽減されて行くことと示唆され、紙幣廃止後の一時的な影響を見越すことを選んだ。RBI は会計年度 2017 年の GVA 成長率は 7.1% (7.6% から)減少したが、2017 年 3 月の物価上昇率は、上昇リスクを伴う 5% と予測した。

7. 銀行信用成長率は、更に低下し、信用サイクルは上向きへの変わり目にある

インドの銀行の信用成長率は、12 月度に更に 5.8% へと低下し、史上最低となった(図2)。これは、信用需要の低下をもたらしている、最近の紙幣廃止の一時的な効果が背景にある。インドの信用サイクルは、上向きへの変わり目にあり、サイクルの明確な底を打っている。ここからのあらゆる上昇は、資産市場、特に株式市場を刺激するものと考えられる。

この報告書は株式やユニットのオファーの性質を持つものではなく、意見や広告の提案や提示でもありません。これは何らかの証券の利率や価格の起こり得る将来の動きに関する何らかの予測や表示の性質を持つものではありません。上記の報告書の内容は、特定の目的、経済状態、そしてこの報告書を受け取る特定の人の特定のニーズを顧みず、情報提供のみを目的としています。何らかの証券や有価証券への投資と本文書に言及されている投資戦略の妥当性に関しては、アドバイスを求めてください。